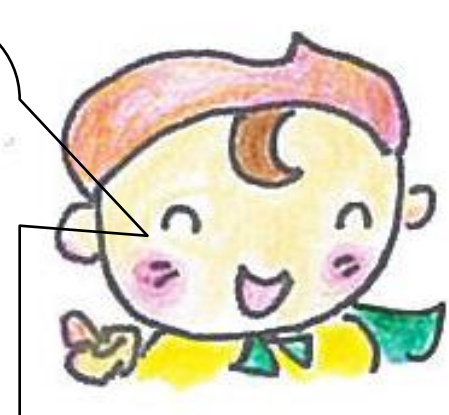


「赤磐市障害者自立支援協議会（ピーチネットあかいわ）」とは？

赤磐市に住んでいるすべての障がいのある人が幸せに暮らしていくために、当事者やその家族、支援者、行政など、さまざまな関係者が集まり、話し合い、行動していく協議会です。



ピーチくん

令和6年度全体会・研修会

全体会を対面にて開催し、令和5年度の事業報告及び決算、令和6年度の事業計画及び予算案が承認されました。また、赤磐市障害者自立支援協議会（ピーチネットあかいわ）の10年の取り組みを振り返り、大切にしてきたこと、成果、今後の展望を共有しました。

また構成員同士が、本音で話し合い、自由に意見を交換し、顔の見える関係を作ること、これからの活動に対して新たなアイデアや気づきを得ることを目的に、井戸端カフェ方式で少人数での自由な対話を行いました。1グループ5人の10グループで「安心して住み続けるために、みんなと一緒に考えていきたいことは何ですか？」をテーマに、安心して本音を語り、それぞれ活発な意見が交わされました。



令和6年度の活動報告

★くらす部会

8月28日にくらす部会カフェにて「居宅介護サービス」について知識を深めました。10月23日には消防署とくらし安全課のご協力の下、赤磐市内の事業所から当事者の方々に参加いただき、防災グッズや消防車などに触れる機会を作ることができました。2月28日にはAMDAの難波妙さんの話をお聞きしました。その後のグループワークでも活発な交流ができ、情報共有の場になりました。困ったときに助けてくれる誰かにつながるためのくらす部会になっていたらいいと思います。



★そだつ部会

今年度は『子育てについて考えよう』を大きなテーマに、全2回で部会を開催しました。第1回（10/15）『こどものトラウマ体験を減らそう』では、小さなトラウマ体験の積み重ねが大きな心の傷になってしまうことや、どういったことがこどものトラウマにつながるのかを考えました。第2回（12/17）『キズつき体験から回復するヒントを探そう』では、レジリエンスを高める方法や支援を、大人が実際にやってみました。どちらも小グループでのグループワークで保護者、支援者・相談支援専門員、行政担当者等様々な立場の方々が、笑顔で活発に盛り上がっていました。



★はたらく部会

昨年大盛況だった福祉就労フェアですが、今年度は若干来場者が少なかったです。様々な要因が考えられ来年度に課題が残りました。ただ内容は昨年より素晴らしいフェアでした。今年度新たに事業所紹介冊子「つなぐあかいわ」を完成することができました。冊子名はフェアに来て頂いた方の投票によって決定しました。



★まちづくり部会

令和5年度に、相談支援専門員の個別事例から拾い上げた地域課題の数は20を超えました。その中で、すでに取り組みが始まっているものは9つでしたが、手つかずの課題も沢山ありました。令和6年度には、その中から3つの課題について取り組みました。それは、①重度心身障害児者、医療的ケアが必要な人たち ②グレーゾーンと思われる子どもたち ③精神障害のある人たち、の生活について語り合おう、という取り組みです。井戸端カフェと名付けたワールドカフェスタイルの語り合いからは、それぞれの課題が、より細かに浮き彫りになってきました。令和7年度は、この課題について取り組みます。



★権利擁護ワーキンググループ

令和7年2月13日くらす部会・権利擁護ワーキング合同研修会を開催しました。講師に特定非営利活動法人AMDA 副理事長 難波妙氏をお迎えし、「AMDAの活動から見える避難所の現状」の講演をしていただきました。AMDA活動を通して伝えたいこと『生きることに憶病になってはいけない、「助けて」と言う、死ぬな！』ということ、災害では自助が8割とのことで日頃からの備えと地域の方々となつたておくことの大切さなどを教えていただきました。

講義の後は、「災害時のために備えていることは？」をテーマに情報共有を兼ねたグループワークをおこないました。グループには行政、当事者、家族、相談員、事業所など様々な関係者が参加し、貴重な機会となりました。



AMDA 副理事長 難波 妙氏

★青年部ワーキンググループ

青年部ワーキンググループはピーチネットあかいわ所属の各事業所から有志の人にご参加いただき、活動しているグループです。今年度、何に重点的に取り組んでいくかについて会議で話し合いを行い、顔が見える関係性を維持しつつ、各部会のお手伝いができれば良いという話になりました。今年度は「福祉就労フェア」と「障害者週間の啓発活動」に協力をさせていただきました。一緒に活動をしていただける仲間を募集中です！！



1111

ピーチくんの豆知識【強度行動障害とは】

りんくステーション 相談員 藤野武男

自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語。

→ もともとの障害ではなく、その人の状態のことです。

■では、なぜ強度行動障害になるのか？

障害特性（コミュニケーションの苦手さや感覚の過敏性など）に環境がうまく合っていないことが、人や場に対する嫌悪感や不信感を含め、行動障害をより強いものにしています。

環境（物理的な環境、支援者、その他の人、状況など）

- ・刺激や情報が偏ったり、分かりにくい、独特な形で入ってくる → 「わからない」の積み重ね
- ・伝えたいことをことばではない独特の表現や行動を通して伝えようとする → 「伝わらない」の積み重ね
- ・人や場に対する嫌悪感、不信感 など

障害特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障害

強度行動障害は、周囲を「困らせる」行動ではなく、本人が「困っている」ことのサインです。

強度行動障害支援者研修基礎研修資料より



★春15(いちご)の会

特別支援教育のニーズのある子どもたちの進路（中学卒業後）について、備前県民局委託事業として今年度は赤磐市、備前市、和気町、赤磐市障害者自立支援協議会そだつ部会の共催で実施しました。YouTube動画配信（令和6年8月9日～9月11日）は予定通り行い、前年より視聴者数が増え高評価を得ました。情報交流学習会は残念ながら台風のため中止となりました。来年度は備前市が事務局となって実施予定です。



新規事業所

構成団体の仲間が増えました！

ともにあかいわ訪問看護ステーション：訪問看護

デイサービス亀池荘：生活介護

訪問介護事業所 α：居宅介護、重度訪問介護

岡山県重症心身障害児(者)を守る会：当事者・家族団体

【通信に関するお問い合わせ先】

- 赤磐市障害者自立支援協議会事務局
- 赤磐市役所 りんくステーション
- 連絡先
- 電話：086-955-0555